

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書

研究代表者 所属・職名 人文・社会教育学系 准教授

氏 名 塚田 穂高

研究期間 令和4年度～令和5年度

研究プロジェクトの名称	新科目「公共」の教科内容・教科教育を架橋した教育実践充実化のための基礎的研究
研究プロジェクトの概要	<p>本研究は、高校公民の新科目「公共」をどう教えていくかという基本的な課題のもと、教科内容研究と教科教育研究の領域間を架橋し、教育実践の充実化を具体的にはかっていくための研究者間・現場教員間のプラットフォームならびにネットワークの基礎を構築することを目的とする。2022年度に「公共」の教科書12冊が出そろい新科目のスタートが切られ、いくつかの授業案なども提出されてきているが、「倫理」「政治・経済」や旧「現代社会」との異同、中学校公民との連続性、その教科内容と取扱いの特性などについては十分な検討が未だ行われておらず、それを踏まえた教育実践例の蓄積も不十分である。その点で、研究代表者（塚田）は主に宗教学・社会学の領域から公民系の教科内容構成を問い直す研究を、研究分担者（中平）は公民教育・法教育研究の領域から「公共」教育に関わる研究を進めており、本学に「公共」科目研究・教育の拠点を構築する素地がすでにあると言えよう。本研究では、そうした拠点構築を目指し、①「公共」科目の成立過程の研究、②「公共」科目の内容構成（教科書を中心に）の特性研究、③教育実践の蓄積・深化と実践案の検討・提示、を有機的に関連させながら展開する。またその際に、現職の教員や専門家とも連携・情報共有しながら、科研申請を見据えた「公共」教育充実化の研究体制・ネットワークづくりに注力する。</p>
研究成果の概要	<p>研究代表者の塚田と研究分担者の中平・原田の3者で、複数の研究会等を通じて、高校公民「公共」の高校学習指導要領・同解説、また高校「公共」教科書12冊について、その内容・構成を確認し、共有を行った。</p> <p>塚田は特に、宗教学・社会学の領域から、まずは全「公共」教科書の全執筆者の専門領域について網羅的に把握することを通じて、「公共」教科書記述内容の特性・傾向性について考察した。また特に宗教教育研究の立場から、全「公共」教科書における「宗教」記述を網羅的に調べ、「現代社会」などの教科書記述とも比較しながら、その特性を明らかにし、宗教教育のあり方を考察した。また、「公共」に含まれる憲法教育の単元、消費者教育の単元を念頭に置きながら、「公共」などで「カルト問題」についてどのように扱えるかについて検討を進めた。</p> <p>研究分担者の中平は、公民教育・法教育の立場から、「公共」のあり方や、宗教と消費者問題に関わる法教育授業実践と構成について研究を行った。研究分担者の原田は、「公共」の内容を念頭に置きながら、中学校社会科公民的分野における日本国憲法の「政教分離」「信教の自由」記述について比較しながら検討を進めた。</p> <p>また、本研究プロジェクトの成果の一部を発信するかたちで、日本シティズンシップ教育学会第4回大会シンポジウム「宗教とシティズンシップ」</p>

	<p>(2023. 12. 9) が企画され、塚田・原田が報告者として、中平が司会者として登壇し、活発な議論が交わされた。塚田は「宗教教育とシティズンシップ形成—多文化共生と社会問題を考える視点から—」と題して報告を行った。本研究プロジェクトの主題が、諸関連学会において注目を集めていることが確認でき、また同シンポジウムや諸学会での報告と議論を通じて、「公共」のあり方を含め、この課題に関心のある研究者間でのつながりを新たに構築することができた。</p>
<p>研究成果の発表状況 (※今後の予定も含む。)</p>	<p>研究代表者の塚田は、上越教育大学社会科教育学会第 37 回研究大会 (2022. 10. 29) で「公共」教科書における「宗教」の扱い」、日本公民教育学会第 33 回全国研究大会 (2023. 6. 11) で「カルト問題」を公民教育でどう扱うか」、第 96 回日本社会学会大会で「高校公民系教科書における社会学者の関わり」(2023. 10. 8) の報告をそれぞれ行った。</p> <p>研究分担者の中平は、「宗教に関する法教育授業構成研究—寄付の不当な勧誘への消費者保護法制の効果と課題から—」(法と教育学会、Vol14) を執筆した。</p> <p>研究分担者の原田は、日本社会科教育学会第 73 回全国研究大会 (2023. 10. 28) で「戦後日本における中学校社会科公民的分野の「信教の自由」をめぐる教科書記述の変遷」の報告を行った。</p> <p>他に、前述の日本シティズンシップ教育学会第 4 回大会シンポジウム「宗教とシティズンシップ」(2023. 12. 9) に 3 者がそれぞれ登壇した。こちらの内容についても、あらためてまとめられて刊行される予定である</p>
<p>学校現場や授業への研究成果の還元について</p>	<p>研究分担者の原田は、本研究の成果に基づき、その知見を活かすかたちで、勤務校で引き続き「公共」を始めとする授業実践を行う。塚田・中平は、高校「公共」に関する研究を継続し、成果を社会的に発信するとともに、他科目や中学校社会科の授業実践に資するかたちでの成果のとりまとめを行う。なお、中平を研究代表者とし、塚田も分担者として参画する科研費基盤研究(C)「政治的・宗教的中立性に焦点化した主権者教育の授業開発・実証研究」(24K05907) が 2024 年度～2026 年度で採択されたため、そこにおいても本研究の問題意識と知見を踏まえて深化させ、授業・教材開発等を継続し、成果の還元を進める。</p>